

萩市医師会報

No. 592 2022.7



8 月 例 会
休 会

「夏」
撮影 A.O.

一 医 師 会

1 県医情報 前川県医常任理事
県立総合医療センターの建て替え、ドクヘリの運行調整委員会報告などの最新の情報が報告された。

2 会長報告 綿貫会長
外来感染対策向上加算に係る都志見病院によるカンファレンス（研修会）の開催について

日 時 7月14日(木)
午後7時から（1時間程度）
場 所 医療支援センター 1階 大会議室
（ウェブ併用予定）

現時点の申込医療機関数は13機関で会場参加者数は20名であること（ウェブ参加の意向確認は後日）。なお、加算の申請は当該カンファレンスを受けた上で、個々の医療機関として判断し申請するよう、会長から留意事項の伝達がされた。

引き続き、都志見病院の山本院長より以下のとおり、カンファレンスのテーマ（予定）について概要紹介がされた。

テーマは、感染対策向上加算1取得病院である都志見病院の連携先である同加算2取得病院の美祢市立病院との地域連携カンファレンスの実績を踏まえ、当該カンファレンスでの検討データによる事例紹介、特にMRSA、ESBL（基質特異性拡張型βラクタマーゼ）の院内感染状況、指定抗菌薬の使用状況など診療所に有用な内容をピックアップすること。テーマの2番目として、新型コロナウイルス感染症患者の即応病床の運営実績に基づく病床運用及び課題対応、新型コロナウイルス感染症患者（疑い含む）のCT検査実施に関する感染防止の留意点と課題について紹介し、意見交換を予定していること

3 7月診療報酬請求書の移送について
大藤理事

国保・社保 7月8日(金) PM2:00まで

4 7月定例理事会、例会の日程について 大藤理事
定例理事会 7月13日(水) PM7:00～
例 会 7月29日(金) PM7:00～

5 郡市医師会保険担当理事協議会報告 佐久間理事
5月12日(木) 於 山口県医師会
5月定例理事会報告にて報告済みであるので、報告概要は省略し、以下のとおり、触れられた項目を記載。
・令和4年度の集团的個別指導（医科病院）について
・集团的個別指導について
・医科病院の個別指導について
・新規、個別指導（病院、診療所）、共同指導について
・医科指導実施計画（概要）について
・集団指導、集团的個別指導の令和3年度の実績について
・生活保護法に基づく個別指導について

6 学術講演会の開催について 藤原理事
日 時 7月15日(金) PM7:00～
場 所 WEB開催
演題1 「運動器慢性疼痛の診療と治療」
萩市民病院 整形外科
科長 村上智俊 先生
演題2 「運動器の痛みにおける神経障害性疼痛治療薬の役割」
山口大学大学院医学系研究科
麻酔・蘇生学
助教 原田英宜 先生

7 5月分会計収支の報告について 米城理事
分会計収支表のとおり承認された。

一 医師会

1 会長報告 綿貫会長

山口県医師会第191回定例代議員会報告

6月16日(木) 於 山口県総合保健会館

報告事項

第1号「令和3年度山口県医師会事業報告の件」

決議事項

第1号「令和3年度山口県医師会決算の件」

第2号「山口県医師会役員（会長、副会長、理事、監事）及び裁定委員選任の件」

第3号「山口県医師会役員（会長、副会長）選定の件」

第4号「令和5年度山口県医師会会費賦課徴収の件」

第5号「令和5年度山口県医師会入会金の件」

第6号「令和5年度役員等の報酬の件」

第7号「顧問の委嘱に関する件」

以上の議案について決議がされ、これから2年間新体制となることが報告された。

※ 令和3年度山口県医師会の事業報告の詳細については事務局に置いている資料または山口県医師会報等での確認をお願いします。

2 子宮頸がん予防ワクチン (HPV) キャッチアップ接種に係る該当者への周知について

花宮理事

萩市健康増進課から住民周知をするに当たり事前に会員医療機関に理解して頂けるよう花宮理事に依頼があり、花宮理事から以下のとおり、説明がされた。

ヒトパピローマウイルスワクチン (HPV) のキャッチアップ接種の勧奨について、勧奨されない時期があり未接種の人たちへの接種を行う事が始まります。対象者は、平成9年度生まれから平成17年度生まれで、誕生日は1997年4月2日から2006年4月1日の女性で、3回接種をしていない該当者への補助が出るということと、こ

れまでに自費で接種された方への補償がされることです。

これまでのヒトパピローマウイルスワクチン (HPV) 接種の勧奨の周知は、中学校1年生と高校1年生の女子及びその保護者に送付していましたが、小学校6年から接種可能で、中学校2年生と3年生にも、接種勧奨の通知を送りたいのでご了承をお願いしたいということで、確認をお願いします。

「全員が承認」

【綿貫会長からの質疑】

この子宮頸がんワクチン (HPV) キャッチアップ接種は、萩だけでしょうか。

【花宮理事の回答】

全国的に行われていることで、萩だけの話ではないと思いますが確認します。

3 萩市の国民健康保険診療所について

綿貫会長、佐久間副会長

【綿貫会長から説明】

萩市の国保診療所の運営問題については、以前から市役所内において協議がされていたようですが、医師会として協議に入ることはなかった状況です。この度、福川診療所の先生の欠員を受け、医師会の先生方に診療への出務協力を打診する中で初めて医師会にも市から医師確保の協力を求められました。地域住民の受診機会の確保は医師会として行政任せでは済まされないことです。

これから、萩市川上国保診療所の管理者であり、国保診療所の状況を良くお分かりの佐久間副会長に概況の説明をして頂き、今後の方針について医師会としての意見を理事会で協議し、医師会でできることなど本当に未来に向けての意見を萩市へ提言できるぐらいの、協議がこれから醸成されれば良いと考えて先生方のご意見をお願いしたいと思っています。

【佐久間副会長からの説明】

萩市の国保診療所の現状と、常勤医が不在となった福川診療所の状況について簡単にご説明します。

国保診療所は国民健康保険法に基づいて設置された診療所で、そこで開業されても

経営が成り立たないような僻地などにおいて、地域の医療、介護、福祉を平等に住民に提供することを目標としています。

山口県からの派遣を受けて、自治医科大学卒の若い医師が赴任しているのは見島、大島、須佐と福川です。そこに関しては萩市のホームページやその他を通じて常時常勤の医師を募集しています。福川診療所については、令和3年10月以降、4名の先生から問い合わせがあり、施設見学にもいらっしゃいました。そのうちの2名は山口県が契約している医師紹介会社からの斡旋で、うち1名が4月1日付で着任していただけたのですが、最終的な条件の折り合いがつかず、常勤医がいない状況になりました。

4月は、火曜日を私が、木曜日を前川先生が担当しました。5月からは自治医科大学卒の後輩（山口市在住）が同じく火曜日・木曜日に診療してくれていますが、今のところ9月末までとなっています。4月から6月までは、県立総合医療センターと萩市民病院から各月1回ずつ診療支援をいただきました。

当初、萩市医師会へは、医師会を通じての方が良いかどうかを相談しました。独自に照会して良いとのことでしたので、ある施設にお聞きしたところ、体調的に難しいとのことでの実現しませんでした。その後、萩市議会6月定例会での答弁に関する記事をお読みになったのだと愚考しますが、7月初めに医師会のある先生から診療支援についてのお問い合わせがありました。

以上が現在までの状況です。

萩市への派遣医師数が減ったため、今後は各診療所をグループ化するなどして支援しあう仕組みを萩市民病院と協力して作り、若い派遣医師が安心して働ける体制の構築を検討しているところです。

【山本理事の意見】

これまでに都志見病院からは、ワンポイントの支援をしても定期に入ることは難しいこと、医者がある程度、病院内に集約されて無いと困難であること、総合診療科が

中心になっているのが正しいやり方かもしれないが専門医不足あることから、外科医、特に手術をしなくなった外科医でも大丈夫と思います。自治医大に頼るばかりではなく、可能な中で考えていかないといけない。もちろん自治医大の先生も引き込んで、彼らのやりたい専門研修をやりつつ、地域での定期治療ができるような環境というのを整備するのが、多分将来的には一番良いと思います。

将来的には福川診療所の問題だけではなく、佐々並や明木も問題がいろいろ出てくると思いますので、病院医師と医師会と県と萩市で考えていかないといけないと思います。

直近10月1日からと言われると、我々もちょっと協力が難しいというのが現実ですが、この議論はずっと続ける問題だと思っていますが、それが継続できていないことが現実と思います。

【佐久間副会長】

自治医科大学の同窓会にも確認しましたが、欠員を補充するような支援体制は無いとのことでした。他にも数件当たりましたが、年度途中からの支援は無理との回答でした。

住民の方、あるいは医師会の先生方のお知り合いの方で、国保診療所での勤務を希望される方がいらっしゃいましたら、紹介していただけないかと期待しているところです。

【米城理事の意見】

萩市民病院も定期での対応は難しいです。

大きくは当面の福川の問題と先行きの問題と二つと思いますが、当面の福川は来年4月までの問題ですか、それとも来年4月以降もある問題ですか。

【佐久間副会長の回答】

山口県に対して来年度の派遣要望はしていますが、明確な回答はありません。

【米城理事の意見】

医師の派遣が難しいのであれば、交通の足を作るという考えはありませんか。それ

に関して市は何か考えていますか。

【河野理事の意見】

基本的に診療所に来られる定期の患者の方を診る人がいないのが問題で、救急は救急搬送で対応し、定期の方を交通機関で運送することで診る方が安くつくので、その方が合理的で、へき地医療支援病院である萩市民病院への運行を確保することが筋ではないかなと思います。

【前川県医常任理事】

例えば福栄地区で萩よりに住む人たちをバスで中心部に連れて行くっていう話は、それさえも負担になる人たちのための診療所があることから考えなければなりません。バスを出して萩市中心部に連れて行くなら、どこに連れて行くかが問題で、例えば市民病院への送迎は多分出来ないはずです。

【河野理事の意見】

萩市民病院はへき地医療支援病院ですので、違和感はないと思います。市内のその他の病院等に任すというのは不可能です。それと期限があると思います。次のドクターがどうか招聘する事を念頭に、それまではでやってみようっていう事じゃないと話が進まないと思います。

【綿貫会長の意見】

萩市にあった形でへき地医療を守ることが出来るかを萩市医師会が考えて、案を作ってみることが必要だと思います。こちらが何も案を示さない状況で、県からの指導や助言は難しいと思いますので、我々から要望や要求を提案していかなくてはいけないと思います。若い医師が来ないと言う現状をみると、魅力のあるグループ診療とは何か、医師組織のトップにある医師と交流のできる核的な組織を作って効率良く診察をしていくことは早急に考えていかないと、一朝一夕でできることでは無いと思うので、今から案を考えて県にもアプローチをして、その案を判断してもらうことで、これだけの医者が必要ですとか、こういった人材が必要だとか、そういうお答えも出てくると思います。

行政に頼るだけではなく、医師会が主導

してつくるべきと僕は思います。行政と市民病院の先生方がどう考えているかが非常に大きなポイントだと思います。

【森 副会長の意見】

結局、最終的には行政が市民病院とか中核病院そういうのを作ることの危機感を持っているかどうか重要だと思いますが、検討は地域医療推進課だけではなく、市役所上層部にも伝わっているのでしょうか。

【大藤理事】

来月の理事会でも協議するなど引き続き協議し、医師会としての方策がまとめられるようにします。

4 8月診療報酬請求書の移送について

大藤理事

国保・社保 8月10日(水) PM2:00まで

5 8月定例理事会、例会の日程について

大藤理事

定例理事会 8月10日(水) PM7:00～
例 会 休会

6 山口県医師会学校医部会役員会報告

藤原理事

6月23日(木) 於 山口県総合保健会館

報告事項は、「学校における新型コロナウイルス感染症対応に係る留意事項について」、「小児の新型コロナウイルス感染症対応について」、「マスクの着用に関するリーフレットについて」、「マスクの着用の考え方及び就学前児の取扱いについて」、「学校検診における成長曲線の見方」であり、資料に沿って報告された。

以前にお知らせしました防府医師会の村田先生が作成された学校健診における成長曲線の見方ですが、内容が更新されていますので改めてお知らせします。

今年度の学校医予防接種医・心臓検診精密検査医療機関の研修会が12月4日の日曜日13時から、ホテルニュータナカで予定されています。

山口市の小児科の先生から、ランドセル

が重くて、それによる頭痛、肩こりの患者さんが増えた印象がある。文科省で認められている置き勉強について、学校医等でもう少し積極的に議論して取り組んでいくべきではないかとの意見がありました。

産婦人科の先生から、山口県の子宮がん検診受診率が全国ワーストワンだと報告があり、それに伴い予防接種を進めることとの意見がありました。

7 郡市医師会成人・高齢者保健担当理事協議会報告 兼田理事

6月30日(木) 於 山口県医師会

兼田理事から以下のとおり、主な協議事項について報告がされた。

山口県独自にアレルギー疾患医療認定制度の創設がされ、アレルギー疾患対応できる医師を増やすことが目的で、医療従事者向けの研修をオンデマンドで配信する予定であること。

肝がん・重度肝硬変治療特別促進事業については、B型C型の肝炎ウイルスを原因とする肝がんや重度肝硬変の治療の研究促進をするとともに患者の経済的負担を軽減する為の補助制度で、令和3年4月から精度が見直されて、限度額を超えた月が4カ月以上必要だったのが、3か月以上に緩和され、入院治療が対象だったところが通院治療も助成となったこと。

肝炎の治療特別促進事業で、BCの肝炎の治療の助成制度であること。

風疹の検査事業については、第5期定期接種の対象となる昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性については、市町で実施する抗体検査を活用すること。

風疹の追加的対策については、各医療機関が集合契約を結んでいますが、もしその内容に変更がある場合は郡市医師会に届けること。

山口県胃内視鏡検診研修会については、胃がん検診で内視鏡検査を実施されている医療機関に限られますが、研修会を開催すること。

がん検診キャンペーン推進事業というものがありまして、2人1組になって癌検診を受診すると受診後に応募すると景品が当たること。

糖尿病対策関係で、山口県糖尿病療養指導士講習会が実施要領に従って開催されるが、今回はズームと会場とのハイブリッド方式で開催されること。なお、終了試験の第5回だけは会場受講となること。

禁煙については、学校単位での聞き取り調査で禁煙の防止教育が有効であると結論づけられたことから学校医の先生方も協力して欲しいということで、参考として講演用の資料が山口県医師会のホームページに掲載されていること

8 6月分会計収支の承認について 米城理事 会計収支表に沿って説明され承認。

二 萩准看護学院

1 生徒募集の高校訪問報告並びにポスターの掲示依頼について 神崎事務長

7月11日(月) 大津緑葉高校日置・大津・水産、長門高校

7月13日(水) 萩光塩学院

7月15日(金) 萩高校奈古分校、萩商工高校、萩高校

生徒募集ポスター掲示依頼（10月予定）
各医療機関、市内のショッピングセンターやJA山口などへ依頼。

2 6月分会計収支の承認について 米城理事 会計収支表に沿って説明され承認。

令和4年度

定時総会報告

日時 ● 令和4年6月18日(土) PM3:00

場所 ● 萩地域医療連携支援センター

議決権を有する会員総数 81名

議決権を有する出席会員数 70名

(本人出席/25名、委任状/45名)

議事の経過の要領及びその結果

開会の議事に先立ち、配布資料等の確認と説明が事務局よりあった後、綿貫篤志会長から以下のとおり、挨拶の中で、新型コロナウイルス感染症の患者数は減少傾向にあるが、発生動向は注視していく必要があること、新たな役員体制となるが、新型コロナウイルス感染症への対応をはじめとし、萩の地域医療の課題が山積している状況にあり、会員に対して対応への協力要請がされた。



引き続き綿貫会長から、議長、副議長の選任手続きの要請がされ、3月12日の臨時総会において選出された議長候補者の池本和人会員、副議長候補者の売豆紀雅昭会員に対し、本定時総会の議長並びに副議長として選任することについて挙手による承認を求めたところ、全員の挙手を認められ、議決宣言がされた。

これにより、以後の進行は議長、副議長とされた。

池本和人議長が議長席に登壇。

池本議長が開会に先立ち、本日の出席者数、委任状の提出者数の報告を事務局へ求め、事務局から、本日の総会員数81名に対し、出席者24名、委任状提出者44名の合計68名であり、総会員数の半数の定足数に足る出席者数であることが報告され、池本議長から本定時総会は適法に成立していることから総会成立の宣言がされた。

議事に入る前に池本議長から物故会員の報告が求められ、安藤 静一郎副会長から都志見病院の村田秀雄会員が6月10日に逝去されたとの報告があり、個人の略歴紹介の後、安藤副会長

から議長へ黙とうの要請がされ、議長により全員による黙とうが捧げられた。



議事に入り、議長は、定款22条及び議事規則第4条第2項の規定により、議事録署名人に森 繁広理事、佐久間 暢夫理事を指名した。

池本議長から事務局に令和4年度定時総会議案の訂正の有無について尋ねられ、事務局から正誤表の説明がされて議案の訂正がされた。

報告事項の報告第1号第1項から第4項までの議案上程による事務局の議案朗読の後、議長から理事者へ報告要請がされた。

報告第1号 令和3年度一般社団法人萩市医師会事業報告について

1. 萩市医師会事業報告について
2. 萩准看護学院事業報告について
3. 事業報告の附属明細書について
4. 監査報告

第1項報告者の安藤副会長から、令和4年度定時総会議案の2頁より29頁までに記載した、第1項の医師会事業報告について、若松研弥理事から、令和4年度定時総会議案の30頁より32頁までに記載した、第2項の学院事業報告について、綿貫篤志会長から、令和4年度定時総会議案の33頁に記載した、第3項の事業報告の附属明細書について、市原 巖監事から、令和4年度定時総会議案の34頁に記載した、第4項の監査報告書に沿って報告がされた。



事業報告の各項の説明報告及び監査報告に対する質疑は無かった。

池本議長が議長交代を告げ、売豆紀副議長が登壇。

売豆紀副議長から出席者数が問われ、事務局から出席者25名、委任状提出者45名の合計70名の報告がされ、総



会員数81名の半数の定足数に足る出席者数であることが確認され、議事に入った。

議決事項の議案第1号について、議案上程の要請がされ、事務局による議案朗読の後に説明要請がされた。

議案第1号 令和3年度一般社団法人萩市医師会決算及び会計歳入歳出決算等について

1. 一般社団法人萩市医師会法人決算について
2. 萩市医師会会計歳入歳出決算について
3. 萩准看護学院会計歳入歳出決算について
4. 監査報告

第1項から第3項までの報告は米城 秀理事から、令和4年度定時総会議案の36頁から46頁までに記載した、第1項の法人決算について、第2項の萩市医師会の歳入歳出決算について、第3項の萩准看護学院歳入歳出決算について説明がされた。

続いて、中嶋 薫監事から、令和4年度定時総会議案の57頁に記載した、第4項の監査報告書の報告がされた。



会計報告の説明報告及び監査報告に関する質疑を求めたが質疑は無かった。議案第1号各項の決議について挙手による承認を求め、全員の挙手を確認し原案どおり議決された。

引き続き、議決事項の議案第2号について、議案上程の要請がされ事務局による議案朗読の後に売豆紀副議長が議案を読み上げた。

議案第2号 令和4年度理事及び監事等役員の選任について

1. 正副会長、理事の選任について
2. 監事の選任について
3. 裁定委員の選任について
4. 山口県医師会代議員、予備代議員の選任について
5. 顧問の選任について

議案の候補者名を読み上げた後、質疑を求めたが、質疑は無かった。

議案第2号第各項の決議について挙手によ

る承認を求め、全員の挙手を確認し原案どおり議決された。売豆紀副議長が議長交代と休憩を10分間とすることを告げ休憩に入る。

休憩の後、議長交代。

池本議長が登壇し、池本議長から出席者数が問われ、事務局から出席者25名、委任状提出者45名で合計70名の報告がされ、総会員数81名の半数の定足数に足る出席者であることが報告され、議事に入った。



議決事項の議案第3号第1項から第3項までの議案上程の要請がされ、事務局による議案朗読の後に説明要請がされた。

議案第3号 一般社団法人萩市医師会事業計画について

1. 萩市医師会事業計画について
2. 萩准看護学院事業計画について

第1項萩市医師会事業計画については、綿貫会長から61頁に記載した、計画の項目ごとに以下のとおり、詳細に説明がされた。

1 持続可能な地域医療提供体制の整備に向けての取組について

① 「新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症拡大に対応できる平時からの体制整備」については、本年1月からの新型コロナウイルス感染拡大の第6波では萩地域においても施設内クラスターが発生するなど新規患者数が二桁に達する日が続き、入院医療への負担を回避するため、自宅療養を中心とする医療提供体制への転換・見直しが県からあり、会員医療機関にも協力をお願いしたところである。県の要請に応じ、自宅療養者の健康相談輪番制度、必要に応じた訪問診療に協力するとともに1月中旬から5月末までは医師会事務局も萩保健所の早朝ミーティングに参加し、感染の情報共有をしたところである。現時点、新規患者の発生は縮減しており、検査・診療も平時の状況に落ち着きを取り戻しているが、感染拡大時に備え、国の方針にもある、病院の感染症対策の強化に応じた診療所の感染症対応体制について県保健所などの行政とも連携し、感染症対策を

円滑にできる作業を進めていくので、協力をお願いしたい。

- ② 「地域医療構想等を踏まえた病院・診療所の役割分担の明確化及び連携強化に向けた検討・調整」については、国の所見で示されているとおり、高齢化による疾病構造の変化や医療技術の進展に応じた急性期・回復期・慢性期、在宅医療など段階に応じた質の高い、多様な医療を提供するためには、限られた医療資源を有効に活用できるよう、地域の各医療機関の機能分化を前提とする医療機関相互の連携強化を図っていく必要があり、そのためには医療機関関係者が病床機能等報告などの情報を活用し、認識を共有化し、自主的な取り組みを進めていくことが重要である。当萩医療圏では地域医療構想の推進に当たり、国の重点支援区域に指定されているが、現状、急性期病床の医療提供体制整備に向けた動きは停滞し、先行きは不透明であると言わざるを得ない。こうした中、地域医療構想、医師の働き方改革、医師の偏在是正といった国が進める三位一体の改革の実施期限が迫っている。萩医療圏でも地域医療構想の実現に向けた理解と機運醸成を図り、医師の働き方改革及び医師偏在に向けた議論をスピード感をもって進めなければならない。そのためには行政、医療関係者、医療保険者が一丸となって地域医療構想実現に向けた取組を進めていく必要がある。また、地域医療構想の目的や手法が市民にうまく伝わっていないことを反省し、行政にのみに任せるのではなく、医師会としても正確な情報発信をしていくよう努めたい。
- ③ 「医療人材の効率的な活用による「二次救急病院輪番制」及び、「一次救急在宅当番医制」の整備」については、まず、現在、急性期病床を持つ3病院に対し、これら病院関係者の尽力で二次救急輪番体制が維持されていることを、この場を借りて感謝申し上げる。救急体制の維持に向けて、当面の対応としては新型コロナウイルス感染症の軽症患者の受入れの円滑化の推進の他、住民に根付いている、真夜中でも安易に救

急利用をするという姿勢から、考えて救急を利用するという姿勢に意識を転換してもらえよう、医師会としても、具体的な発信をして、住民の行動変容を促すことが重要である。住民が救急を利用する際の参考となる「わかりやすい救急利用のハンドブック」の作成・配布を検討してみたり、診療時間内であれば診療所でも軽症の救急患者を受け入れるなど病院を守るための病診連携を進めて行くことが重要である。

次に一次救急については、医師の高齢化などにより年々、参加医療機関が減少し、一医療機関の負担が増加している。これからの一次救急はどうあるべきか、根本からの体制の見直しを検討していかなければならない。今後の救急医療のあり方は地域医療構想と直接、関係している。活動が停滞している市の地域医療協議会を活用し、行政に働きかけをしていきたい。

- ④ 「地域包括ケアシステムとの連携を踏まえた在宅医療提供体制充実支援事業の推進」については、萩市・阿武町と当医師会が共同で運営している、「萩圏域地域包括ケアネットワーク協議会」は新型コロナウイルス感染拡大のもと、活動が制限される中、発行済みのガイドブックの改定、必要な情報をホームページで適時、発信するなど出来る範囲で活動してきた。昨年11月にはWEBにより外部講師を招き、「コロナ感染症対策」の勉強会を開催し、160名を超える多職種の方の参加があった。今後とも医療・介護の職種の連携を進める研さんの場を提供できるよう、様々な事業を展開していきたい。

2 一般社団法人萩市医師会の健全運営への取組について

- ① 「安定的な法人運営の下、住民向け保健活動、医師等への研修などの公益目的事業等の実施、山口県医師会との連携強化」について、その成果は医師会の運営、その中心となる理事会の運営の仕方に掛かっている。萩市医師会が一般社団法人に移行して9年が経過したところである。今後とも理事会活動をより活性化し、その中で出された課題、検討事項をしっかりと協議し、実行

し、経過や成果を例会、医師会報を通じて会員にしっかりと報告していきたい。また、一般社団法人の存続のためには公益目的支出計画に基づいた事業等の適正な予算執行が必要となる。地域住民の健康を守るという医師会の使命の下、地域医療の充実に向けた住民啓発や周知について予算化し、医師会の目的に沿った健全運営に努めてまいり。次に県医師会との連携については前川会員が県の常任理事にご就任頂いており、適時、情報提供が円滑に行われているところである。県医師会では一昨日、定例代議員会が開催され、新に就任された加藤会長の下、新体制がスタートしたところであり、前川常任理事におかれましてはご多忙とは存じますが、北浦の医師会員の代表として引き続き、県医師会活動へ協力をして頂くようお願いする。

- ② 「萩准看護学院の安定運営、卒業生の北浦地域での看護職就労定着の促進」について、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の実施に伴い、臨地実習の制限など履修計画の変更等を強いられる中、若松担当理事の下、中村主任を中心に教務員が一丸となって学院運営して頂いたところである。こうした中、今年度は専任教務員1名を欠く中でスタートとなってしまった。残された教務員は多忙を極めているので、一日でも早く、欠員の補充に努めたい。これからも北浦地域で優秀な看護職員が一人でも多く、定着するために教務員におかれては学院運営に尽力されるようお願いする。

次に主な年間行事計画について、以下のとおり、説明がされた。

創立記念行事は現在のところ、新型コロナウイルス感染症の感染の拡大が続いている状況にあるため、中止を決定した。長北医学会も長門市医師会の引き受けで昨年、中止されたが、今年度は実施予定であるが、特別講演のみと規模を縮小し、行われる予定である。

続いて、会務、組織、役員、委員については総会資料により説明された。

第2項萩准看護学院事業計画について、若松理事から年間行事計画に沿って説明がされた。

医師会と学院の事業計画について質疑を求めたが、質疑は無かった。

議案第3号第1項と第2項の決議について挙手による承認を求め、全員の挙手を確認し原案どおり議決された。

議決事項の議案第4号について議案上程がされた。

議案第4号 令和4年度一般社団法人萩市医師会予算及び会計歳入歳出予算について

1. 一般社団法人萩市医師会予算について
2. 萩市医師会会計歳入歳出予算について
3. 萩准看護学院会計歳入歳出予算について

米城理事が、第1項一般社団法人萩市医師会予算について、令和4年度定時総会議案資料83頁の正味財産増減計算書を中心に、一般社団法人の損益計算書の会計基準により萩准看護学院の収支を含む、実施事業、その他会計、法人会計に振り分けた予算書の説明がされた。引き続き、84頁以降の会計収支表による第2項萩市医師会歳入歳出予算について、第3項萩准看護学院歳入歳出予算について説明がされた。

売豆紀雅昭会員から、医師会の予算について、会報の予算額が減額されていることへの説明が求められ、事務局から理事会例会等の報告において、昨年度はコロナ関係の行政報告や説明が多くあり会報の頁数が増加したが、今年度は少ないと見込んだためとの説明がされた。

その他の質疑は無かったので、議案の決議について挙手による承認を求め、全員の挙手を確認し原案どおり議決された。

議案の審議が終了したことから、綿貫会長から議長・副議長への謝辞並びに会員に対し、感謝の挨拶がされた。

池本議長から本日の議事が無事終了したことの謝辞と令和4年度定時総会の閉会が宣言された。



新型コロナと共に

山本 貞壽

「…と仲良く」にしようかとも考えたのですが、不幸な経過となった方、入院、入所となって永く面会できない方、後遺症に悩む方たちからは響きかた！。

ワクチン接種にも携わってきたけれど、昨年夏の第5波は覚えているし、自然消滅かとも思っていたら冬になって第6波、下止りのまま第7波。厳しくなる事態を覚悟していたら18日（月・海の日）の報道（山口新聞）。

新たに772人感染
 2日連続で最多
 1人死亡
 医療逼迫回避へ綱渡り
 コロナ3日連続10万人超
 専門家「来週20万超えも」

写真 7月18日(月)山口新聞記事のヘッドライン

ヘッドライン！さーきたぞ！（写真）有名人の感染や、世界陸上オレゴンの日本選手の感染の報道も。

前号最終行に、「毎日学ぶべきことを教えられ、この時代に現役で居れたことを幸せに感じている」と記しているから、責任の一端を果すべく、連休明けからの心がまえを神仏に念じた次第。

「…と共に」「…と仲良く」だから、やっておきたいことも遂げてしまいたい。広い視野をもっていた河井継之助、長岡藩家老は戊辰戦争中に戦傷死するのだが、彼が主役の「峠」（最後のサムライ）の映画を17日宇部に行って観てきた。萩でも上映してもらいたい。8月高校インターハイ見学（徳島）、秋には東北への企画。

自分を含めて、「コロナ時代の心理学」など考えてみたいですね。

いつかどこかのTVでお目にかかるかも。

日本医師会

6月に日本医師会(日医)の新たな会長が決まりました。
 (Q) 日医とは。
 (A) 細菌学の父と呼ばれる北里柴三郎が1916年に設立した「大日本医師会」を前身とし、医師が入る医療団体です。都道府県医師会の会員で構成します。日医会員は約17万4千人(2021年12月時点)で、全国の医師の約半数に当たります。会長をはじめ役員も多くを開業医が占めており、開業医の発言力が大きいとされます。

医療政策に大きな影響力
 コロナで批判、新会長就任

あひる会ゴルフコンペ

開催日／令和4年6月26日(日)

場 所／ブルーラインカントリー倶楽部

優 勝 重岡健一郎

準優勝 横尾 吏 3位 柳井 章孝

4位 坂倉 孝典

OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
42	48	90	17.0	73.0

編集後記

今年は今のところ雨の量が大変少なく梅雨もあっという間に終了してしまいました。

今年は無常気象だと言われ久しい気がします。今後もこのような状況が続くと思うと、我々が子供の頃とは常識自体もどんどん変わっていくように思われます。人間もUp dateが必要という言葉は便利ですが簡単なことではありませんね。
(K.W.)

小児感染症情報

6/6(月)～7/3(日)

疾患名	6/6～6/12	6/13～6/19	6/20～6/26	6/27～7/3
新型コロナウイルス感染症		10	10	10
インフルエンザ (A・B)				
RSウイルス感染症				
咽頭結膜熱 (アデノウイルス感染症含む)				2
溶連菌感染症	1		1	
感染性胃腸炎 (ロタ・アデノ・ノロ・その他)	5	10	4	8
水痘				
手足口病				
伝染性紅斑				
突発性発しん		1		
ヘルパンギーナ				
流行性耳下腺炎				
帯状疱疹				
ヒトメタニューモウイルス				
マイコプラズマ感染症				
ヘルペス歯肉口内炎				

報告者：いわたにこどもクリニック 院長 岩谷 一

救急月報 (令和4年6月分)

萩市消防本部

区分	救急事故種別											合計	
	火災	自然災害	水難事故	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他		
本	出動件数	0	0	0	11	0	2	31	0	0	141	40	225
月	搬送人員	0	0	0	12	0	2	30	0	0	133	40	217

萩市医師会報 No.592

2022年7月29日発行

編集 広報委員会
 発行人 萩市医師会
 印刷所 (有) マシヤマ印刷